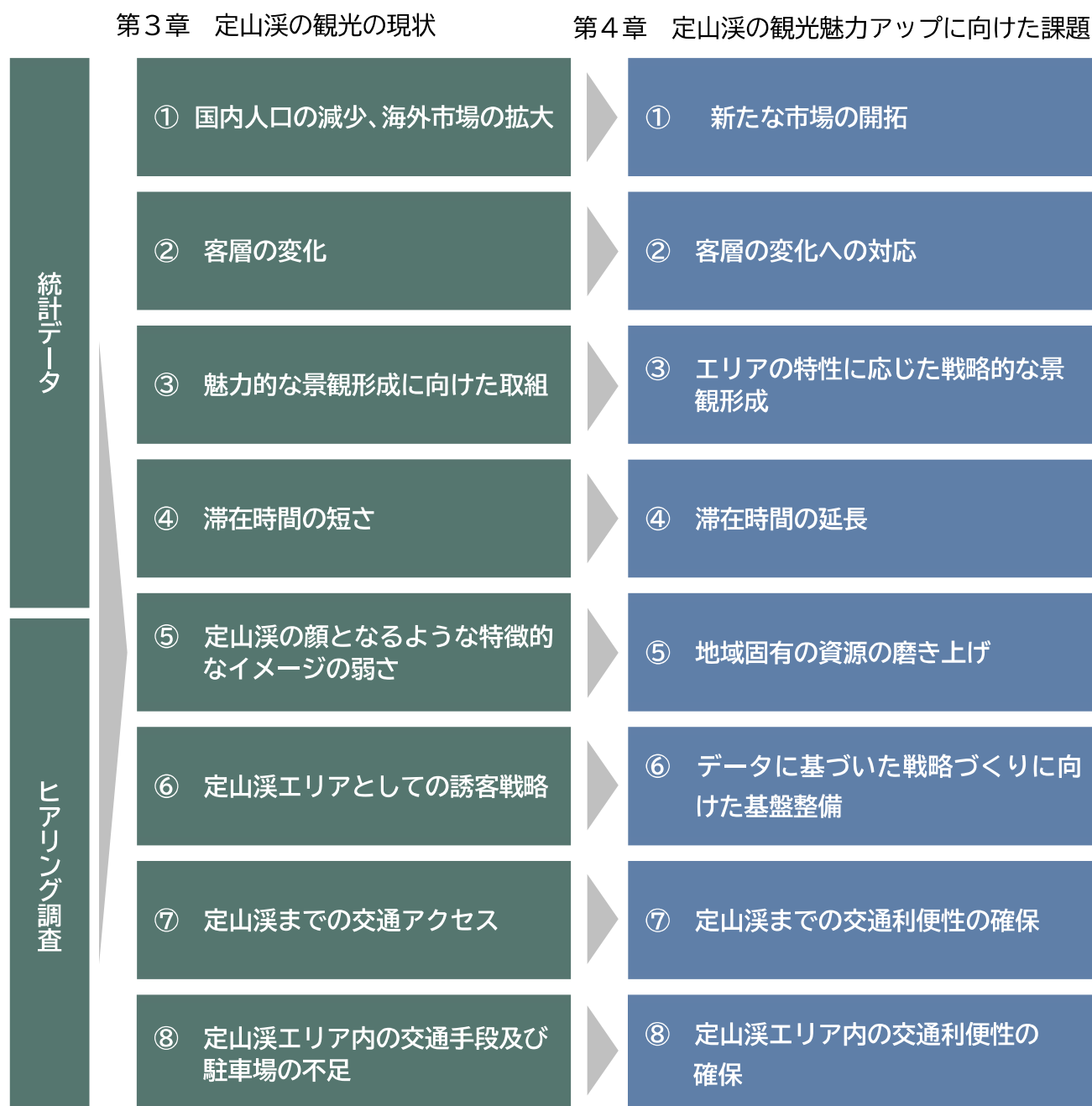


## 第4章

## 定山溪観光の課題

第3章の定山溪観光の現状を踏まえ、今後の定山溪の観光魅力アップに向けて、以下の課題への対応が求められます。



## ① 新たな市場の開拓

札幌市民をはじめとした北海道民に古くから親しまれてきた定山溪ですが、需要を支えてきた道内人口は日本全体より早いペースで減少すると予測されています。今後も需要を確保していくためには、日本人観光客はもとより外国人観光客や、アクティビティやグルメなどを目的とした日帰り客の誘客拡大を含めた新たな市場開拓が必要です。

## ② 客層の変化への対応

個人旅行の増加や外国人観光客の来訪による客層の変化が進んでいることから、地域内にある資源を活用しながら、観光客のニーズの変化、多様化に対応した観光地づくりを進めていくことが必要です。

## ③ エリアの特性に応じた戦略的な景観形成

定山溪温泉街には、二見公園や三笠公園などの緑地、足湯などの休憩スポット、さらには赤岩の澗や舞鶴の瀬などの美しい溪谷、二見吊橋や定山溪大橋などの眺望スポットなど多種多様な観光資源が点在しています。

定山溪温泉街全体の魅力を高めていくためには、こうした観光資源が所在するエリア別の特性に応じて、定山溪景観まちづくり指針の考え方を反映した戦略を立て、面的に景観形成を進めることが重要です。また、景観形成は長期的な視野を持ち、継続して取組を進めていくことが重要であるため、取組を推進する体制の整備も課題です。

## ④ 滞在時間の延長

観光地として持続可能であるためには、様々な魅力を提供することで滞在時間を延長し、来訪客一人当たりの観光消費額の拡大を図ることが重要です。新たなコンテンツの展開や各コンテンツを組み合わせた過ごし方の提案などにより、滞在時間の延長を図る必要があります。

## ⑤ 地域固有の資源の磨き上げ

観光地としての定山溪の魅力を高めていくためには、他の観光地では代替できない定山溪固有の魅力をいかに高め、観光客に提供していくかという視点が重要です。そのためには、地域内にある多様な観光資源の価値を改めて見つめ直すとともに、磨き上げていくことが求められます。

## ⑥ データに基づいた戦略づくりに向けた基盤整備

幅広い客層が来訪する定山溪において、地域が一丸となって誘客に取り組んでいくためには、ターゲットとする客層を定めて戦略を立てる必要があります。そのためには、定山溪に訪れている来訪客のデータを的確に収集し、それを共有・分析したうえで、データに基づいた戦略を企画立案することができる体制を構築する必要があります。

## ⑦ 定山溪までの交通利便性の確保

路線バス等の公共交通や、宿泊施設の送迎バスの維持の困難さが増していますが、個人旅行の増加や外国人観光客の増加、沿線住民への影響などの観点も含め、定山溪までの交通アクセスの利便性の確保が課題です。

## ⑧ 定山溪エリア内の交通利便性の確保

来訪者に定山溪エリア内の周遊を楽しんでもらうためには、交通利便性の向上が必要です。日帰り客や宿泊前、宿泊後の方も利用できる駐車場の確保や、自家用車を利用しない層でも快適に移動できる交通手段の確保が課題です。